

日本家庭医療学会会報

第68号

発行日 2009年8月31日

ホームページ : <http://jafm.org/> E-mail : jafm@a-youme.jp

第1回 日本家庭医療学会認定家庭医療専門医 報告

第1回 日本家庭医療学会認定家庭医療専門医 認定審査

試験日時：平成21年7月20日(月・祝)

試験会場：東京慈恵会医科大学 OSCEセンター

第1回家庭医療専門医認定審査によって、
下記の14人は家庭医療専門医と認定されました。
今後の家庭医としての活躍を期待します。

日本家庭医療学会
代表理事 山田 隆司

1. 天野 雅久 (社) 地域医療振興協会シニアプログラム「地域医療のススメ」
2. 小松 亮 立川相互病院家庭医コースプログラム
3. 渡邊 隆将 日本生協連医療部会家庭医療学後期研修プログラム (東京)
4. 横林 賢一 日本生協連医療部会家庭医療学後期研修プログラム (東京)
5. 齋木 啓子 日本生協連医療部会家庭医療学後期研修プログラム (東京)
6. 尾崎 達哉 愛媛医療生協家庭医療後期研修プログラム
7. 吉本 尚 奈義ファミリークリニック・津山中央病院 家庭医療後期研修プログラム
8. 中村 太一 三重大学家庭医療学プログラム
9. 矢部 千鶴 三重大学家庭医療学プログラム
10. 牛澤 洋人 (社) 地域医療振興協会シニアプログラム「地域医療のススメ」
11. 村田 健 北海道プライマリ・ケアネットワーク後期研修プログラム「ニポポ」
12. 櫛笥 永晴 聖マリアンナ医科大学内科学 (総合診療内科) 後期臨床研修プログラム 家庭医療コース
13. 川城 麻里 (社) 地域医療振興協会シニアプログラム「地域医療のススメ」
14. 松下 公治 (社) 地域医療振興協会シニアプログラム「地域医療のススメ」

平成21年度 第1回 家庭医療後期研修のための指導医養成ワークショップ

報 告

平成21年度 第1回 家庭医療後期研修のための 指導医養成ワークショップ

期日：2009年6月27日(土)～28日(日)
27日 13:30～17:30 / 28日 8:30～12:00

場所：東京大学医学図書館333 室

〈内 容〉

■ 6月27日(土) 1日目

「効果的な家庭医療研修のためのプログラム作成・
応用編 (仮題)」

担当：一瀬 直日 (赤穂市民病院)

「後期研修医のメンタルヘルスケア」

担当：前野 哲博 (筑波大学)

懇親会

■ 6月28日(日) 2日目

第1部 「The GRIPE model

～家庭医療指導医のための慢性疾患外来指導法」

第2部 「家庭医療後期研修における

ポートフォリオ基盤型学習の導入」

担当：藤沼 康樹、安来 志保

(日本生協連医療部会家庭医療学開発センター)

総 括



草場 鉄周

今年度最初のワークショップとなりましたが、プログラム責任者クラスから現場での指導に奮闘されている先生方まで多様な指導医の皆さんにご参加いただき開催させていただくことができました。各論は各先生の報告をご参照いただきたいと思いますが、前回以上にディスカッションも盛り上がり、プログラム作成に一生懸命取り組まれる姿、そしてポートフォリオでは教育現場を思い浮かべながら課題を考える姿などが印象的でした。これも、認定プログラムが本格的に稼働し、家庭医療指導医の皆さんも現場で試行錯誤しながら教育に取り組まれる現状があつてのことと思います。当FD委員会もそうした指導医の先生方のニーズにお応えできるよう、魅力的なプログラム作りに取り組んでいきたいと思っておりますので、ご期待下さい。

【この号の主な内容】

第1回 日本家庭医療学会認定家庭医療専門医 報告	1
平成21年度 第1回 家庭医療後期研修のための指導医養成ワークショップ 報告	2
平成21年度 日本家庭医療学会 後期研修プログラムの本認定について	5
ご報告 「第4回 日本家庭医療学会通常総会」での日本家庭医療学会の解散決議について	6
平成21年度 第2回 家庭医療後期研修プログラム指導医養成のためのワークショップ 案内	7
第17回 家庭医の生涯教育のためのワークショップ 案内	9
第5回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー 案内	10
平成21年度 臨床研究初学者のための勉強会 報告・案内	11
リレー連載 診療所研修 京都家庭医療学センター	12
日本プライマリ・ケア学会 第23回近畿地方会 案内	14
「生涯学習(CME) に役立つツール」 特集	15
事務局からのお知らせ	16

教育方略から考えた目標設定

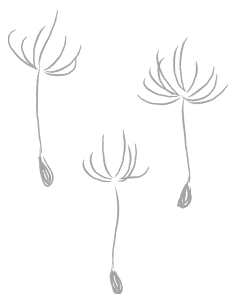


一瀬 直日

梅雨の晴れ間で、真夏のような暑さとなりましたが、全国各地より30名の指導医を迎えて初日のワークショップを行いました。今年2月に行ったワークショップ「効果的な家庭医療研修のための目標設定のコツ」に引き続いた応用編という形で準備していましたが、フタを開けてみれば同じ参加者はほとんどなく、教育プログラム開発における理論的枠組みの説明に時間を割けないまま、目標の記載を実践していただく形となりました。今回も個人作業の結果を前回同様に提出していただき、コピーをとって後日に各人へメールでコメントをお返すことといたしました。目標の記載が初めてという方も多く、また2時間のワークショップでの簡単な解説にも関わらず、8割がたの参加者が評価方法を伴った目標をしっかりと記載できていました。大変優秀な結果に驚かされました。

目標設定ができるようになれば、あとは実践と評価を是非現場で行っていただきたいと思います。指導医・プログラム認定の更新には、こういった教育記録を提出していただくことが将来的に学会側から求められるようになる可能性があると考えています。FD委員会としても指導医やプログラムの質の維持向上のために実現していきたい項目の一つです。

これからも是非一緒に学んでいきましょう！



後期研修医のメンタルヘルスケア



前野 哲博

後期研修医が安心して研修に専念できる体制作りは、指導医の大切な役割です。特に、その存在が十分に理解されていない家庭医の後期研修に特有の問題として、アイデンティティ・クライシスへの対策も非常に重要です。

本セッションでは、第一部として家庭医のアイデンティティをどう守るかについてディスカッションを行いました。多くの指導医にとって自分自身も体験してきたテーマであり、活発な意見が交わされました。その中で、ロールモデルに触れる機会を持つこと、常に仲間との接点を持ち、情報共有を図ることなどの意見が出されました。

第二部は、後期研修医のメンタルヘルスケアについて、特にうつ病についてのレクチャーを行った後に、うつ病を発症していくシーンについてのトリガービデオを供覧して、早期発見と対策についてのグループディスカッションを行いました。指導医だけではなく、レジデント自身やナースなどを含めて他の病院スタッフが、うつ病について正しい知識を持ち、早期発見の重要性を共有して、組織を挙げて対策を強化していく必要性などについての意見が数多く出されました。

今回のセッションを通して、後期研修医のメンタルヘルスケアについて、指導医が果たすべき役割についての理解を深めていただけたのではないかと思います。どう実践していくか難しいテーマではありますが、これを機に今後も指導医間で議論を深めていければと思います。

第1部

GRIPLE Modelを用いた 慢性疾患外来プリセプティング

安来 志保

第2部

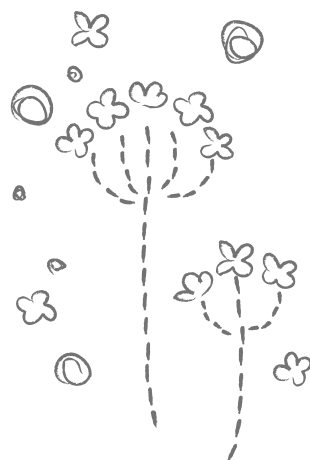
ポートフォリオ基盤型家庭医療教育

藤沼 康樹

第1部では、慢性疾患外来プリセプティングの新しいモデルを紹介させていただきました。外来プリセプティングでは、安定した慢性疾患患者は、軽視されがちで、どうしても急性の疾患に重きが置かれる傾向があります。また、慢性疾患プリセプティングは既存のモデルでは、カバーできない内容があり、新しいモデルの必要性が出てきました。そこで考え出されたのがGRIPLE Modelであり、GRIPLE Modelとは、G (Guideline and Goals)、R(Reflection on the patient)、I(intervention)、P(Prevention, Pain and

Palliative)、E(Effective feedback)の頭文字をとったもので、フィードバックの枠組みを示しています。今回はロールプレイを通じて、このスキルを使う練習をしました。ロールプレイの時間が短く、すべてのスキルを使うことはできなかったと思いますが、ぜひ実践してほしいです。

第2部では、showcase型ポートフォリオ作成を基盤とした後期研修の進め方と、作成援助の方法について解説しました。講師の体調が若干悪かったせいもあり、運営がスムーズではなかったのですが、参加された皆様の協力もあり、なんとか進めることができました。ポートフォリオに関しては、reflective journalとしてとらえる方たち、事例レポートのコレクションとしてのみとらえたり、まだ共通の基盤ができていないところがあります。しかし、ポートフォリオという用語を使うか否かにかかわらず、アウトカム基盤型カリキュラムの視点が強くなればいかなと考えております。次回機会がありましたら、さらに洗練されたWSにブラッシュアップさせていきたいと思っています。



平成 21 年度 日本家庭医療学会 後期研修プログラムの 本認定について

平成 21 年度 後期研修プログラムの本認定申請は、期日までに 14 施設からの申請がございました。

前号 67 号でお知らせいたしました 12 施設に加え、新たに 1 施設が認定され、下記 13 施設が本認定となりました。

平成 21 年度本認定後期研修プログラム一覧

家庭医療学後期研修プログラム「うおぬま」

高知大学医学部家庭医養成後期研修プログラム

松前家庭医養成プログラム

J A 長野厚生連後期臨床研修センター地域医療医養成コース家庭医養成プログラム

J A 長野厚生連安曇総合病院 家庭医療医養成プログラム

手稲溪仁会病院 家庭医療研修プログラム

市立奈良病院家庭医療後期研修プログラム

NHGP 家庭医プログラム

医療生協さいたま総合医・家庭医プログラム

恵寿家庭医療研修プログラム

諏訪中央病院家庭医療後期研修プログラム

兵庫県立柏原病院と丹波地域が育てる総合医・家庭医養成プログラム「丹波」

北海道厚生連地域医療支援センター家庭医育成プログラム (追加)



「第4回日本家庭医療学会通常総会」での 日本家庭医療学会の解散決議について

開催日時：平成21年8月23日（日）12時00分～13時15分

開催場所：国立京都国際会館 Room A（京都市左京区宝ヶ池）

正会員数：1,905名

出席者数：1,436名（うち委任状出席者数1,246名）

2009年8月23日の「第4回日本家庭医療学会通常総会」にて、日本家庭医療学会の解散について下記の説明がなされました後、新学会の設立を条件に日本家庭医療学会を解散することが決議されました。新学会の設立は4月を予定致しております。

●新学会の名称について

「日本プライマリ・ケア連合学会」として新学会をスタートさせ、新学会設立後に名称検討委員会（仮称）を設置し、継続的に学会名について審議していく予定です。

●法人格について

新学会は一般社団法人としてスタートし、その後に公益社団法人を目指します。

●残余財産の処分について

現段階では、残余財産を引き継ぐことが出来ないため、合法的に新学会に帰属させることが可能かについて引き続き検討します。

●役員の出方法について

直接選挙、間接選挙（地域ブロックで選出された代議員（仮称）から選出する理事）および推薦理事の三種類とする予定ですが、新学会設立後に選挙制度検討委員会（仮称）を設置し審議する予定です。

●新学会設立当初の理事について

各学会の現理事が新学会設立当初の役員に就任し、新学会の枠組みを決めていく予定です。

●会員の移行について

今年度（平成21年度）分まで納入済みの会員を日本家庭医療学会から移行する会員として登録します。

●専門医の名称について

「家庭医療専門医（通称：家庭医）」および「病院総合診療専門医（通称：病院総合医）」とすることで合意を得ました。

●各事業について

原則的に、後期研修プログラム認定関連、ワークショップやセミナーの開催など各学会で行っている事業は、新学会発足後も継続して行う予定です。

新学会設立後の各学会の認定に関わる経過措置については、三学会合同の「専門医・認定医経過措置検討委員会」にて審議されます。

●委員会、各部会（学生・研修医部会、若手家庭医部会）、ワーキンググループの在り方について

各学会の活動が継続できるよう三学会合同の「委員会・WG検討委員会」にて審議されます。

平成21年度 第2回 家庭医療後期研修プログラム指導医 養成のためのワークショップ

7月に当学会認定プログラムの1期生に対する認証試験が実施され、8月に多くの家庭医療学専門医が誕生しました。こうした中、プログラム修了者に対する社会からの期待や関心はますます高まり、確かな実力を持った家庭医を育てることができる魅力あるプログラム作りは喫緊の課題とも言えます。

当ワークショップでは来年の学会合併を見据えた上で、今後の家庭医療指導医に求められる実地での教育能力やプログラム管理能力の養成を目指して、今年度も定例ワークショップ3回を企画しております。指導医資格取得目的の方はもちろん、すでに取得した方も更なる指導能力 Up のために受講していただければ幸いです。

学会認定プログラムに関わる多くの指導医の皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆ **日 程** : 10月3日(土) 14:00～18:00 (受付: 13:30～)
4日(日) 9:00～12:00 (受付: 8:30～)
※10月3日(土) 12:30～14:00 プログラム責任者の会が開催されます
- ◆ **場 所** : 東京大学医学図書館 333室
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
(最寄駅: 地下鉄丸ノ内線/大江戸線「本郷3丁目」駅)
- ◆ **対象者** : 現在、本学会認定の家庭医療後期研修プログラムを運営している指導医またはプログラム責任者、または将来立ち上げを計画している指導医 (学会員に限る*)
*非学会員の方は当日入会手続きをしていただけます。
※プログラム責任者については代理参加も可。但し代理の場合も会員であることが条件です。
※家庭医療後期研修プログラムのこれまでの状況を存じない方は、学会 web サイト (<http://jafm.org>) より**学会認定後期研修プログラム (バージョン 1.0)** をダウンロードしてご持参ください。
- ◆ **参加費** : 10,000 円 (どちらか1日のみ参加の場合は6,000 円) ※懇親会費は別途
懇親会費 (軽食での情報交換会) : 5,000 円
(費用は、当日受付にてお支払いください)
- ◆ **参加登録** : メール、ファックス、郵送のいずれかにて、件名に「**指導医養成のためのワークショップ**」、本文に「(1) 氏名、(2) 所属、(3) 連絡先 (メールアドレスまたはファックス)、(4) 懇親会参加の有無」を明記のうえ、下記学会事務局に申請をお願いします。
日本家庭医療学会事務局
〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-22-38 三洋ビル 4F
あゆみコーポレーション内
TEL : 06-6449-7760 FAX : 06-6441-2055
E-mail : jafm@a-youme.jp

◆ 内 容 :

■ 10月3日(土) 1日目

「指導医として自己認識力を徹底的に高める方法

— 指導医として自分の強みをどのようにコントロールするか? —」

担当：齊藤 裕之（同善会クリニック 副院長）

〈内容紹介〉

「長所を伸ばす」とは一体どのようなことをいうのだろうか?指導医の私たちは学生や研修医と診療や何気ない時間を共有することで、自然に評価を下していることがある。「この研修医はできる」または「この研修医はできない」と。ある研修医はあなたの指導の下ですばらしい家庭医として成長し、またある研修医はあなたの指導の下で伸び悩む。これは一体どういうことだろう。

実は私たち指導医の評価は案外正しくなかったりする。少なからず自分たちのスタイルや信条を押しつけていることを認識しておく方がよい。研修医の長所を伸ばすために、まずは指導医としての自分たち自身のことを徹底的に自己認識しておく必要がある。セッションでは指導医としての自分たちの強みにフォーカスを当てていく。

「家庭医療のコア・プリンシプルを活かした診療実践と教育」(仮題)

担当：岡田 唯男（亀田ファミリークリニック館山）

〈内容紹介〉

家庭医療指導医が日常診療を実践し研修医指導に当たる際、家庭医療の基本的な理論に対する正確な理解は欠かせません。このワークショップではそうした理論に基づいた日常診療や研修医指導のあり方を、館山での実践を通してお伝えし、研修体制の向上に役立てていただくことを目的としています。

18:00~20:00 懇親会

■ 10月4日(日) 2日目 9:00~12:00

「ポートフォリオ作成支援のABC — 学会認定プログラム対応 —」

担当：草場鉄周、八藤英典（北海道家庭医療学センター）

〈内容紹介〉

家庭医療後期研修医の研修修了評価の2本柱は OSCE / 筆記試験とポートフォリオ評価です。その中でも、ポートフォリオ評価は医療界の他分野では珍しく、その指導に戸惑いを感じる指導医の先生方も少なくないと思います。今回のワークショップでは、こうした現場の声にお答えして、学会認定プログラムでの活用を意識した指導方法の基礎知識を提供し、すぐに実践できる学びの場を提供したいと考えています。現場で悩む多くの指導医の皆さんの参加をお待ちしております。

◆今後の開催予定：第3回 2010年1月23日(土)~24日(日)

場所：東京（詳細未定）

さらに詳しい内容が決定次第、学会ホームページにてお知らせいたします。

<http://jafm.org/fd/>

第17回 家庭医の生涯教育のためのワークショップ

今年も 11 月に皆様お待ちかねの家庭医の生涯教育のためのワークショップを開催いたします。場所は例年通り大阪市天満研修センターです。今年はさらにパワーアップした企画を用意しております。初日のメインの講演は、名古屋赤十字病院の野口善令先生にお願いしております。また2日目のワークショップは、これまでに評判の良かったものに斬新なものを加えて、これまで最高の30ものセッションを用意し、他の国内の学会、講演会にはない規模のワークショップになると考えております。講師陣も感染症の岩田健太郎先生（神戸大学）、リウマチ診療の岸本暢将先生（亀田総合病院）、整形外科の仲田和正先生（西伊豆病院）など超豪華な先生方をお願いしております。また今年初めての試みとして臨床研究初学者のための勉強会も同時に開催の予定です。

案内開始は9月中旬を予定しております。豪華講師陣についての情報はもう少しお待ちください。今年も一人でも多くの方に来ていただけるように、定員は350名にいたしました。若手の方もおじおば会の方もこぞってご参加ください。会員の方を優先で受付を予定しております。今から日程に加えておいてください。今年も皆で大阪に集まって明日からの診療が楽しくなるような知識、技術を一緒に学びましょう。

日時：2009年11月7日(土)、8日(日)

場所：天満研修センター(大阪市)

定員：350名 会員優先



第5回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー

2010年2月に第5回若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナーを下記の要領で開催いたします。

第5回は、「家庭医としての志の模索・実現」をテーマに据えていきたいと考えています。

来年度からジェネラリストを担う3学会が合併します。また、今年は、家庭医後期研修プログラムから初代の家庭医療専門医が世の中へ送り出されます。

「ジェネラリストはどうあるべきか?」「後期研修プログラムの後、どうしたらよいのか?」そうした中で自然と湧いてくる問いかけだと思います。

これを読んでいる皆さんは、「家庭医」という言葉に始めて出会った時に、魅力を感じたことがあるかもしれません。そもそも、家庭医に惹かれた時には何を実現したいと考えていたのでしょうか。家庭医の研修を受けたり、家庭医療学の考え方と触れる中で、今何を目指しているのでしょうか。

そんな、私達ひとりひとりがもっている、「志」が問いかけに答えるための大きな材料になるのではないのでしょうか。

今年度は、参加するひとりひとりが自分の「志」を見つめなおす、あるいは、その「志」に向けて少しでも前に踏み出せることを目指します。そのために必要な家庭医としての学び、第一線の指導医からの示唆に富むセミナーを、これを読んでいる皆様と共に、これから作っていききたいと思います。

具体的内容については、現在鋭意検討中です。詳細が決まり次第、メーリングリスト、ホームページなどを通じて、連絡させていただきます。乞うご期待ください。

家庭医療学会若手部会 冬期セミナー スタッフ代表 宮地 純一郎

第5回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー

日時；2010年2月13日(土)、2月14日(日)

会場；東京大学

医学部教育研究棟第1-6 セミナー室 (医学図書館333.310号室)

内容；家庭医を目指す(若手)医師が持つ夢・理想像を具現化し、実現するためのディスカッション、WSなど

(詳細は検討中です。追って連絡いたします。)

対象；①学会認定プログラムの後期研修医

②家庭医を志す卒後3-10年目の医師

③家庭医を目指す初期研修医、11年目以降のベテラン医師も歓迎いたします。

定員；120名

問い合わせ先； 冬期セミナー専用アドレス seminar-wakate@a-youme.jp

平成 21 年度 臨床研究初学者のための勉強会

第 1 回臨床研究初学者のための勉強会 報告

第 1 回臨床研究初学者のための勉強会ワークショップは、東京大学にて 2009 年 5 月 16 日（土）の 14～19 時に「EBMと臨床研究の関係」というテーマで行われた。やや、馴染みの少ないテーマであったからか参加者が 13 名と少なめであった。私は「量的研究が重視される訳」、国立がんセンターの三原華子先生（研究委員会委員）は「臨床研究とEBM」の講演をした。次いでグループワークでは、「男性の糖尿病患者の妻に食事や栄養に関する指導をすれば、患者の糖尿病コントロールはよくなるか？」という家庭医療学的なリサーチクエストに対し、実際に研究計画の立て方をなぞってもらった。5 時間の中で達成できる内容には限界があるが、まずは研究の考え方についてある程度概要を理解してもらえたのではないかと感じている。
(大西 弘高)

次回予定

◆ 期日 : 平成21年 9月26日(土) / 13:00~19:00

◆ 場所 : 東京大学医学図書館 3F

◆ テーマ : 臨床研究に必要な統計学

◆ 対象者 : 臨床研究に興味のある方 (学生の参加も可)

◆ 参加費 : 1,000 円

◆ 定員 : 30 名

◆ 参加条件 : なし

◆ 申込方法 : メールにて、

件名に「平成 21 年度 臨床研究初学者のための勉強会」、

本文に「(1) 氏名、(2) 所属、(3) 卒業年、(4) メールアドレス」を明記のうえ申し込んでください。

※受付は先着順とさせていただきます。若干名の募集ですので、ご希望にそえない場合がございます。

予めご了承ください。

◆ 申込先 : researchers.jafm@gmail.com

◆ 事前課題 : なし



今後の予定

◎ 第 3 回 ——

期 日 : 平成 21 年 11 月 8 日 (日) / 9:00~15:00

場 所 : 天満研修センター (大阪市、「生涯教育のためのワークショップ」の一部として実施)

テーマ : 質的研究「超」入門 : 医師が行うリサーチインタビューの実際

◎ 第 4 回 ——

期 日 : 平成 22 年 2 月 13 日 (土) / 14:00~19:00

場 所 : 東京大学 (「若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー (2 月 13 日~14 日)」で実施を予定)

テーマ : 質問紙の作り方



<http://jafm.org/cp/index.html>

詳細が決まり次第、上記 HP にてご案内いたします。



リレー
連載

診療所 研修

京都家庭医療学センター

(KCFM : Kyoto Center for Family Medicine)

教育診療所：たんご協立診療所 寺本 敬一



〈施設紹介〉

当院は、京都市内から車で、北へ2時間半の距離にある医療過疎地域にあります。

1998年、地域の方々の「私たちの診療所を作りたい」という医療要求と夢がどんどんふくらみ、ワークショップなど重ね、京都民主医療機関連合会、丹後健康友の会が母体となり、基金をゼロから集めて開設されました。診療所の名前から屋根の形、部屋割り、壁や床の色、最後には便器の色まで皆で投票などを行い決定した、まさに手作りの診療所です。診療所づくりに参加した証として、診療所の玄関には参加者の思いが1枚1枚に込められた手作りタイルが壁一面に貼ってあります。2004年から3代目の所長として寺本が、オーストラリア及び国内での家庭医療の専門研修を行ったのち、着任しました。

「がさーえらい」「ふいふいする、ふいーこふいーこする」「“たばこ”しながらここまで来た」「背中に猫をこうて痛い」など方言混じりの第一声に「どうされましたか?」「他に気にかかることはないですか?」と最初に聞き、患者さんのアジェンダ、受診理由を明確にして満足度の高い診療を心がけています。



たんご協立診療所

人口6万人弱の地方小都市（京丹後市）の中で、主に二町（大宮町、峰山町の人口2万4千人）を診療エリアとしています。外来では、小児から高齢者まで幅広く受診され、内科系中心ですが、皮膚、整形、うつ病、パニック障害などの精神的な問題など地域で発生するよくある問題を中心として要求される診療内容も幅広くなっています。もちろん軽い外傷、熱傷の方も時に受診されます。当地域には訪問診療している医療機関が少なく、当院は当地域唯一の在宅療養支援診療所で約40件を管理。在宅ホスピスケアも隣接する訪問看護ステーションと連携協力して、出来る限り対応しています。在宅看取りは、年間10名程度です。医療安全を特に重視しており、毎月のヒヤリハット報告などを基に、医療の質と業務の改善を行っています。また、知人ぞ知る超多機能ファイリングソフト“RSBase”+デュアルディスプレイを導入して、IT化を進め、患者さんにも分かりやすく、診療の効率化、医療の質の向上を図っている真最中です。



京都家庭医療学センター（KCFM）の研修施設群

〈指導医より〉

これまでも、医学生実習、研修医の研修など短期では受け入れてきましたが、2008年度から、後期研修医の2年目診療所研修単位を受け入れ、2009年度に後期研修の3年目がスタートしています。学会の指導医養成のためのWSで学んだ手法（研修契約、ポートフォリオ、5 micro skills など）を積極的に取り入れつつ、研修—研修指導を通して、共に学び成長できる研修にしたいと考えています。また、外来、訪問診療だけでなく、診療所のQI活動の責任者としての活動を通して大きな学びが得られつつ、診療所、地域の医療水準も向上するというお互いがwin—winになることを目指しています。週4回の早朝カンファレンス、学習会（TEXTBOOK OF FAMILY MEDICINE, THE RATIONAL CLINICAL EXAMINATION の輪読、Journal club など）や、外来後のカルテカンファレンス、月2回の研修ミーティングで、研修の振り返り、ポートフォリオ作成支援などを行い、年2回のビデオレビュー、360度評価（ACGME 準拠）を計画しています。年度末の近畿地区ポートフォリオ発表会にもエントリー予定です。また、3年目には総括的評価のため米国家庭医療専門医試験レベルの多肢選択問題試験も行う予定です。月1回のグループ会議で、指導医、研修医の交流を行っています。

家庭医療を学ぶフィールドとしては、非常にバランスがとれており、全国を見回しても理想的な教育診療所のひとつだと思います。是非、見学、研修にお越しくください。

〈後期研修医 宮川 卓也医師より〉

家庭医療学後期研修3年目として、このたんご協立診療所で診療に従事しています。

幅広い疾患を診ること、また疾患だけでなく、患者さんの心のケア、患者さんを取りまく社会的環境にまで配慮した診療を行うこと、即ち家庭医療の中心である『身体的、心理的、社会的にケアする』を目指して日々研修に励んでいます。

具体的な業務としては

- i 診療所業務：外来、往診、ワクチン外来、上部消化管内視鏡、腹部エコー
- ii 診療所QI活動：検診、慢性疾患管理に関する

たんご協立診療所・医療福祉宣言

(2008/2 策定)

「笑顔」・「身近な存在」・「患者中心の医療」・ 「地域に根ざします」の4本柱

- ①「笑顔」
明るく、元気に笑顔で接します。快適で、癒される空間にします。
- ②「身近な存在」
赤ちゃんから高齢者まで気軽に相談をうけ、訴えをよく聞きます。
- ③「患者中心の医療」
生涯学習を続け、安心、安全、納得、最新、最適な医療を行います。
- ④「地域に根ざします」
地域のニーズに柔軟に対応し、安心して住み続けられる街づくりに貢献します。平和と暮らしを守ります。



医療懇談会

ガイドラインの作成
iii 医療懇親会講師（糖尿病、高血圧、大腸癌など）
月1回以上

iv 系列病院での日当直

などです。内科を中心に、小児科、皮膚科、整形外科など非常に幅広い疾患を診療できています（逆に言えば地域が医療過疎ということですが…）。まだまだ知識に未熟な部分も多く、指導医、スタッフの協力をいただきながら（かわいがっていただきながら）、研修の日々を過ごしています。職員は約20人と小さな診療所ですが、アットホームな雰囲気がとても魅力です。日本海が近く、天橋立などの景勝地もたくさんあり、

おいしい海の幸もたくさん味わえる、とてもいいところですよ。ぜひ一度訪れてみてください。

たんご協立診療所

HP : <http://www.kyoto-hokenkai.or.jp/tango/>

Tel: 0772-68-5017

Fax: 0772-68-5035

京都家庭医療学センター（KCFM）

HP : <http://www.kcfm.jp/>



丹後松島、丹後町



ブナ林、大宮町



いさなご山、峰山町

【日本プライマリ・ケア学会 第23回近畿地方会】

～メインテーマ「今、地域医療に求められるもの」～

●概要

会期：平成21年11月15日（日）

会場：伊丹シティホテル（兵庫県伊丹市）

会長：原 弘（伊丹市医師会 会長）

主催：社団法人 伊丹市医師会

●プログラム

特別講演「救急医療の課題と展望」、教育講演1～4、シンポジウム1～2、

一般口演（公募）、ポスター発表（公募）

ランチョンセミナー1～3、機器・書籍展示（予定）

●事前参加登録

平成21年6月1日（月）～9月15日（火）郵便払込用紙にて受付中

●取得単位（順不同）

日本医師会生涯教育講座、日本医師会認定産業医研修単位、日本歯科医師会生涯研修認定、

日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度、日本臨床衛生検査技師会生涯教育制度基礎教科、

兵庫県栄養士会メタボリックシンドローム特定研修単位、日本理学療法士協会生涯学習基礎プログラム、

日本作業療法士協会生涯教育制度基礎コース、日本プライマリ・ケア学会専門医・認定医（更新）

●HP <http://primary23kinki.jtbcom.co.jp/>

◎事前参加登録・演題に関するお問い合わせ先

（株）ジェイコムコンベンション事業本部内 TEL：06-6348-1391（代） E-MAIL：primary23kinki@jtbcom.co.jp

「生涯学習(CME)に役立つツール」特集



(社)地域医療振興協会 近畿地域医療支援センター長
市立奈良病院総合診療科

武田以知郎

生涯教育委員会協力委員で奈良の Dr. イチローこと武田以知郎です。自治医大の卒業生としてへき地医療に関わり、現在は市立奈良病院の総合診療科、(社)地域医療振興協会の近畿地域医療支援センター長として各地の地域医療現場をサポートしています。

以前私が福井県内の病院に勤務していた頃、最近 NHK プロフェッショナルに登場して話題になった名田庄の中村伸一先生や現在福井県立病院 ER で活躍する林寛之先生、外科の服部昌和先生、そして栃木県で在宅医療をリードしている高橋昭彦先生らが近隣にいて、夜遅くまで地域医療について熱く語り合ったことが、その後の私の活動に少なからずとも影響を及ぼしたと感じています。

現在、それぞれが地域医療のリーダーとして活躍していますが、今回医学書院より刊行された「地域医療テキスト」(自治医科大学監修) 3800円では、中村伸一先生、高橋昭彦先生らが執筆陣として名を連ねているので紹介しておきます。本邦初の地域医療学のテキスト(コア・カリキュラム準拠)として、自治医科大学の梶井 教授を始め、地域医療学講座スタッフや卒業生らによって編集・執筆されたものですが、家庭医療関係者には広い視野で地域医療を見直してみるという意味では興味深い内容になっていると思います。

その中でも注目すべきは、教科書にしては思い切ったプロローグ(ある地域医師の1日)とエピローグ(人々のライフサイクルにかかわる地域医療)を飾る中村伸一先生の書き下ろしでしょう。物語として語られる地域医療は、きっと学生さん達や若い先生方の心に響くことと思います。また高橋昭彦先生の在宅医療の項も、教科書としての内容を踏まえつつ、随所から彼の温かいメッセージが伝わってきます。

是非手に取って一読してみてください!

事務局からのお知らせ



メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約1,000名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

◎参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

◎目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけたら幸いです。

◎禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

◎加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

○会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）

○氏名

○勤務先・学校名

○メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail：jafm@a-youme.jp

入会手続について

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続については、学会のホームページの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されますと、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

編集後記

家庭医療学会の後期研修プログラム修了者から14名の卒業生が生まれ、歴史の一ページをこの会報に刻むことができ、とても幸せな気分です。3学会合併を控え重要な時期ですので、会報の情報とホームページの情報をよくチェックしておいてください。

発行所：

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局
広報委員：

松下 明（会報担当理事）、朝倉健太郎

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F
あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6441-2055

E-mail：jafm@a-youme.jp

ホームページ：http://jafm.org/